日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2019
51
September

CONTENTS

- 第72回定期学術集会開催にあたって …… 1面
- 学会重要告知、第72回定期学術集会告知、優秀論文受賞者一覧 …… 2面
- 第4回理事会ニュース …… 3面
- 2018年度フェローシップ受賞者留学体験記、帰朝報告、JATS Academy …… 4～5面
- 総会案内、会員証のお知らせ、みんなでとったぞIF 女性医師の会HPお知らせ、ネクタイ販売、追悼、編集後記 …… 6面

第72回 The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery

日本胸部外科学会定期学術集会開催にあたって

胸部外科の伝統とイノベーション

会長：伊達 洋至 京都大学大学院医学研究科器官外科学講座呼吸器外科

この度、第72回日本胸部外科学会定期学術集会を2019年10月30日（水）から11月2日（土）にわたって、国立京都国際会館で開催する運びとなりました。京都で開催いたしますのは、23年前に人見滋樹会長のもとで開催された第49回学術集会以来となります。私をはじめ、京都大学呼吸器外科講座にとりまして、大変光栄なことと厚く御礼申し上げます。

テーマは「胸部外科の伝統とイノベーション」といたしました。伝統という意味では、日本胸部外科学会は、1948年に設立された歴史ある学会です。そして72年間の歴史の中で、様々なイノベーションが実現してきました。その成果は世界に発信され、日本胸部外科学会は世界の胸部外科学を支える大きな力となってきました。第72回学術集会を、伝統に根ざした新たなイノベーションの発表の場にしていただきたいと思います。

本学会は、心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科の3部門からなる学会です。5人のプログラム委員長（成人心臓：夜久均先生、小児先天性：坂本喜三郎先生、大血管：湊谷謙司先生、食道：丹黒　章先生、呼吸器：伊達洋至）を中心に、32名のプログラム委員の皆様には、ずいぶん知恵を絞っていただき、大変充実したプログラムを企画することができました。さらに、領域横断プログラムもこれまで以上に魅力あるものになったと自負しています。

日本胸部外科学会の最大の魅力は、心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科という3部門が一体となって、胸部外科学の発展を図るところにあると思います。私の育った、岡山大学第2外科では、その3部門すべてを扱っていました。その中で、私は恩師の清水信義先生（第58回会長）のご指導の下、呼吸器外科を専門とすることになりました。まだ30歳代前半のころに、心臓血管外科を佐野俊二先生（第63回会長）、食道外科をThomas Rice先生（クリーブランドクリニック）にご指導いただいたことは、大きな財産となりました。現在取り組んでいる肺癌や悪性縦隔腫瘍に対する拡大手術、肺移植などに関して世界に発信する仕事ができているのは、その財産のおかげだと思っています。

さて、本学術集会の公募演題として1282演題もの応募をいただきました。査読委員272名による厳正な評価採点を行っていただき、998演題を採択いたしました。採択率77％でした。アジアからのInternational sessionへの応募は80演題あり、昨年度から倍増いたしました。国際委員会による評価採点の結果、18名をJATS Asian Travelling Fellowship受賞者に決定しました。日本人と一緒にEnglish sessionの中で発表していただく予定にております。

学会の国際化は重要であり、海外招請演者約30名を予定しています。AATS会長（Vaughn Starnes 先生）、EACTS 会長（Ruggero De Paulis先生）をはじめ、世界の胸部外科学のリーダーをお招きすることができました。そして、招請講演という形式ではなく、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなどで、日本人演者とともに発表いただくことといたしました。日英同時通訳を駆使することにより、充実したディスカッションを期待しています。ホームページに海外招請演者一覧を載せていますので、ご覧になってください。そして、学会終了後の11月3日（日曜日）には、AATS-JATS Aortic Symposiumが開かれます。こちらにも、多くの参加者を期待しています。

特別講演は、iPS細胞の生みの親でありノーベル賞受賞者である山中伸弥先生にお願いすることができました。ご講演の後には、特別企画「胸部外科とiPS・再生医療」を計画しています。山中先生と私は、ランニング仲間です。11月1日早朝には、「山中先生と会長と走ろう」と題して宝ヶ池をジョギングしたいと思います。

秋の京都は、気候も最高で、多くの観光客でにぎわいます。宿泊先は十分準備しておりますが、できるだけ早い予約をお勧めいたします。そして学会終了後の週末には、京都観光を堪能してください。

最後に、「京都での第72回日本胸部外科学会定期学術集会に参加する10の理由」をお知らせいたします。多くの学会員の参加をお待ちしております。

伊達 洋至
現職：京都大学大学院医学研究科器官外科学講座呼吸器外科教授

経歴：

1984年	岡山大学医学部卒業
1988年	岡山大第二外科大学院卒業
1989～91年	ワシントン大学肺移植研究生
1993～94年	クリーブランドクリニックフェロー
1994～95年	ワシントン大学肺移植フェロー
2006年	岡山大学腫瘍・胸部外科教授
2007年	京都大学呼吸器外科教授

趣味：ランニング（フルマラソン35回完走、3時間以内5回）

そうだ京都、行こう。

京都での第72回日本胸部外科学会定期学術集会に参加する10の理由

Reason 1
国内外の一流胸部外科医から学べる心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科の最新情報

Reason 2
約30名の世界屈指の海外招聘演者によるプレゼンテーション

Reason 3
ノーベル賞受賞者、山中伸弥教授の講演と早朝ジョギング企画

Reason 4
iPS、3Dモデル、トレーニング方法など、充実した領域横断プログラム

Reason 5
専門医取得に必要な多彩なクレジット
（医療安全、専門講習、卒後教育セミナーなど）

Reason 6
まるで国際学会のような多くの英語セッションや同時通訳セッション

Reason 7
秋は絶好の京都観光シーズン（17の世界遺産はすぐそこ）

Reason 8
事前登録者にはバス・地下鉄の無料乗車券付き

Reason 9
研修医や専攻医に対して教育的配慮を行いつつプログラムを作成

Reason 10
学会翌日には、AATS-JATS Aortic Symposium を開催

特定非営利活動法人日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery

http://www.jpats.org/

重要告知　今後の日本胸部外科学会

1. 学術集会開催形態の変更「分野別会長制度を導入する」

1）2020 年、2021 年（現行制度下）
現行会長 1 名、分野会長 2 名とし、会長の指名または理事会からの推薦および評議員会での承認をとる。

2）2022 年～数年間
会長 1 名（分野は現行の持ち回りで決定）、分野会長 2 名とする。3 名とも立候補とし、評議員会での選挙により選出する。（2020 年評議員会から開始）

3）202X 年以後
分野会長 3 名（会長制廃止）、3 名とも立候補とし、評議員会での選挙により選出する。

＊学会事務局機能の強化を図る。

2. 正会員制度

2019 年第 72 回学術集会より正会員の学術集会参加費を 5,000 円割り引き 13,000 円とする。これにより正会員の会費負担を軽減し、且つ学術集会への参加を促す。（3 年間予定）

3. 法人格の変更「NPO 法人を将来的に解散するとともに、一般社団法人を設立する」

定款・関連細則について 2019 年 8 月にパブリックコメントを求め、2019 年の評議員会および総会で承認をとる予定である。

4. みんなでとったぞ！インパクトファクター GTCS の取り組み

Impact Factor 2018 は初めて数値がつき 1.219 となった。本年から Best Reviewer 賞を設け表彰する。

5. 年会費

本会会費の値上げを 2,000 円とし、地方会会費は徴収せず、地方会助成事業を開始する。

6. 皆で行こう地方会！

本会会員は所属する地域の地方会会員とし、地方会会費は本会会費と同時に一括徴収する。各地方会の独自性を尊重し、地方会の運営は各地方会に一任する。
心臓血管外科および呼吸器外科は、専門医新規申請に地方会学会発表が 0.5 単位として、専門医更新申請は地方会参加が 0.5 単位としてカウントすることが可能である。（申請の際に 2 度まで）

第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会

学会企画 3「働き方改革、処遇改善、チーム医療合同特別企画」

『医師の働き方改革・2024 問題 ―働き方改革落ちこぼれ施設ゼロを目指して―』

座長：坂本 喜三郎（静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 院長）

今年 4 月、医師以外のほぼ全職種に対する法案に則った『働き方改革：労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン（平成 29 年 1 月 20 日発出：適正な勤怠管理を条件としてサブロク協定締結条件内での労務管理の指針）のもとで時間外労働の上限規制（原則・月 45 時間 / 年 360 時間、特例で年 720 時間まで）」が施行された。ただ、医師については“世界に誇る医療を成立させている医師を取り巻く現行労働環境（長時間勤務の常態化、無給医問題、応召義務も踏まえた宿日直中を含む時間外労働と自己研鑽の分離基準問題など）”に配慮し、他職種よりも長い時間外上限『基本 年 960 時間、地域医療や集中的技能向上のために承認された医師に対する特例で 年 1860 時間』を許容し、しかも 5 年間の猶予が与えられた。しかし逆に言えば、5 年間の間に課題を整理、対応し 2024 年 4 月からは罰則適応のある法に則った運用に組み込まれるということである。
そして、残されていた大きな課題『宿日直を含む、時間外労働対象の判断基準』については、7 月 1 日付で厚生労働省から都道府県労働局長宛に発令された『医師の宿日直許可基準・研鑽に係る労働時間に関する通達』において、その詳細が示された。研鑽のなかで時間外労働の対象になるかならないかのキーワードは、上司の指示（明示、黙示）、自己申請と上司の承認、記録保存で、私は『言うは易し（正し？）行うは難し』と感じた。
ここまでの説明が少し分かり難いと感じた方、今回の副題を確認してください。“働き方改革落ちこぼれ施設ゼロを目指して”です。安心して聞きに来てください。皆さんの貴重な時間を割いていただくことを意識して、『働き方改革に伴う今までの経緯から現在の課題、特定行為を含むタスクシフト推進における現状と今後の指針、近未来の我々の処遇？』までこの 2 時間に詰め込み、それを噛み砕いて伝達できる講師を集めました。2019 年 11 月 2 日午前 10 時、会場でお会いしましょう。

学術集会 3 日目
2019 11/2（土）
10:00～12:00
国立京都国際会館 1 階 第 1 会場（メインホール）

KNL）胸部外科医を取り巻く
働き方改革 2024 問題を俯瞰する
坂本 喜三郎（静岡県立病院機構 静岡県立こども病院 院長）

1）2024 問題対応 “特定行為に係る看護師の 2019 年創設・新パッケージ研修” の最前線
馬場 秀夫 先生（外科学会・外科医労働環境改善委員長）

2）2024 問題を検討する最新情報の提供
堀岡 伸彦 氏（厚労省医政局）

3）“2012 年創設・特定行為に係る看護師の 大学院型研修” の最前線
高木 靖 先生（藤田医科大学）

4）何故、いま “2020 年創設・大学院型研修” の 制度確立を目指すのか
安藤 秀明 先生（秋田大学）

5）2024 問題を病院経営の視点で切る
森田 茂樹 先生（国立病院機構 九州医療センター 病院長）

学会企画 2「男女共同参画セッション」

『男女ともに輝ける胸部外科医を目指して』

処遇改善・男女共同参画委員会 委員長：土田 正則（新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸循環外科学分野）

2018 年の医師国家試験合格者における女性比率は 34% と３割を超え、日本外科学会においても女性会員の比率は 20% と増加しています。
日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会の女性会員の比率は、それぞれ 8%、4% と、外科学会ほど高くはないのですが、今後も女性外科医の増加が期待されます。
また、働き方改革に対応する上でも、男女共同参画の視点は益々重要となっています。
このような背景を踏まえて、処遇改善・男女共同参画委員会では、第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会（伊達洋至会長）に於いて男女共同参画プログラムを計画しています。テーマを「男女ともに輝ける胸部外科医をめざして」とし、東邦大学医療センター佐倉病院心臓血管外科の齋藤綾先生と栃木県立がんセンター呼吸器外科の中原理恵先生に司会を担当いただき議論いたします。
基調講演として、米国胸部外科学会女性医師の会の Shanda Blackmon 会長（Mayo Clinic）に米国の女性医師の活躍の現状と課題をお話しして頂きます。米国においても、当初女性胸部外科医は少なく、様々な困難に対して女性外科医の会として、また学会全体として改善に取り組んできた歴史があります。日本の現状を知っていただき、有益なアドバイスを頂けるものと期待しています。
また、呼吸器外科、心臓血管外科から 1 名ずつの演者に講演して頂きます。
呼吸器外科では獨協医科大学の前田寿美子先生から、呼吸器外科学会の男女共同参画に関するアンケート結果に基づく提言を頂く予定です。心臓血管外科領域からは聖隷浜松病院の立石実先生から講演して頂きます。
さらに、筑波大学心臓血管外科の平松祐司先生にコメンテーターとして参加いただき、それぞれの領域が抱える問題点について討論していただきます。
企画セッションに引き続き、別会場にて日本胸部外科女性医師の会を開催し、男女ともに活躍できる胸部外科医の育成について情報共有いたします。特別企画ならびに女性医師の会へのご参加をお待ち申し上げております。

学術集会 2 日目
2019 11/1（金）
11:00～12:00
国立京都国際会館 1 階 第 9 会場（Room C-2）

2019 年（2018 年 Vol.66）日本胸部外科学会優秀論文 受賞者一覧（敬称略）

分野	氏名	所属（当時）	Vol. No.	Title
心臓血管外科分野	正木 直樹	東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野	Vol.66 No.6	Suppressive effect of pitavastatin on aortic arch dilatation in acute stanford type B aortic dissection: analysis of STANP trial
心臓血管外科分野	矢嶋 真心	大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科	Vol.66 No.8	Multiple coronary stenting negatively affects myocardial recovery after coronary bypass grafting
呼吸器外科分野	中西 良一	名古屋市立大学大学院医学研究科（生体防御・構造医学専攻 病態外科学講座）腫瘍・免疫外科学分野	Vol.66 No.12	Early chest tube removal after thoracoscopic lobectomy with the aid of an additional thin tube: a prospective multi-institutional study
食道外科分野	中島 政信	獨協医科大学 第一外科	Vol.66 No.12	Salvage esophagectomy combined with partial aortic wall resection following thoracic endovascular aortic repair

1．各種委員会報告及び審議事項

（1）理事会

審議事項

1）NCD社員総会

電子カルテメーカーが行うアップロードシステムの構築について検討依頼があったが、次回NCD社員総会での再検討を注視する。

2）ステントグラフト委員会法人化

役員任期に期限がなく細則で決定とあるが、細則はまだ届いていないため、届き次第、検討の上、回答する。

報告事項

1）理事長改選・次期副会長・理事・監事立候補のご案内

上記案内資料が提出された。理事による理事長候補者の推薦締切日は8月23日（金）、次期副会長・理事・監事の立候補届締切日は8月20日（火）である。今回次期副会長候補者の専門分野は呼吸器分野、理事の改選数は心6名、肺3名、食2名である。

2）研究協力承諾の件

研究課題「ICU専門医の臨床判断支援機能を有するAIの実装研究：地域医療へのtele-ICU導入推進強化のために」を厚生労働省公募研究事業に申請するに際し、関係学会の協力が必要とのことで、本学会に依頼があり、理事長が承認したことが報告された。

（2）総合将来計画委員会

学術集会担当事務局員について

3名の応募があり、面接を行った結果、2名を雇用したい旨、報告された。本理事会でも検討した結果、6月の上旬までに雇用契約について社会保険労務士を交えて相談することとした。

（3）専門医制度委員会

1）新専門医制度下の現状

医道審議会医師分科会医師専門研修部会での内容報告

サブスペ連動研修は認められなくなった。専門医制度の中で地理的偏在及び診療化偏在に対して2020年度専攻医募集におけるシーリングの背景（2020年のシーリングでは外科は対象外）が報告された。

2）心臓血管外科専門医認定機構

心血機構総会での決定事項。両側で同一手術を同一術者が行った場合は1例としてカウント、off-the job Training30時間と体外循環5例は2022年新規申請者から必須条件、「再取得制度・認定登録医」の導入を本年度から開始、2019JATS/AATS Aortic Symposiumはセミナー相当、胸部・腹部のステントグラフト内挿術（破裂）は難易度C、地方会クレジットはどの地方会でも承認、手術と同等の効果をもつ低侵襲治療法について心臓・大血管、末梢血管で認めることが報告された。

3）呼吸器外科専門医合同委員会

基幹施設条件が直近3年平均75例/年以上が150例/年以上に変更による定款及び施行細則の変更、2019年認定呼吸器外科専門医受験結果等が報告された。また、呼吸器外科専門医合同委員会委員及び監事推薦の件が提案され、承認された。

（4）正会員選出委員会

63名の申請者で全員が専門医有資格者（心32名、肺28名、食3名）であり、審査の結果、全員の申請が認められたことが報告され、本理事会でも承認された。

（5）会誌編集委員会

審議事項

1）優秀論文選考結果

心2編、肺1編、食1編を選出したことが報告され、本理事会でも承認された。

2）Best Reviewer賞の評価基準

数、スピード、質（associate editorが1から3で評価）の3要素で評価か、数、スピードの2要素で評価について検討し、本年は数、スピードの2要素で、来年度からは質を含めて3要素で評価することが承認された。

3）Reviewerについて

Reviewerに掲載されているのに、ノーレスポンスの人が多く、年に3編～4編査読されている人もいるので、Reviewerの入れ替えを編集委員会で検討する。

4）Springer：License to Publish（LTP）への移行

著者は自身の論文の図表を自由に転載できるようになり、転載許可をもらう必要がなくなるが、著作権自体は今後も本会にある。これは近年の学術出版界の流れを受けて行うものであり、本会もその方向性を承認する。

報告事項

1）現在の投稿状況等

5月10日現在の投稿状況で総投稿192編、Accept数72編、Accept率（Original 50.6%、Case 30.9%）、Acceptまでの平均所要期間及びOnline First掲載までの期間は今まで通り、総掲載数76編、Impact Factorは6月の時点で1.169、2018年引用されたTopはAnnual Reportである。

2）その他報告事項

肺がんSpecial issue発行に際してEditorに送付した文書、Best Reviewer表彰の判断となる査読の返送状況、GTCSの広報活動、Annual Report発行状況、JCVSDが2年ごとに発行しているデータは、将来的にはデータソースが同じなので、毎年統合して掲載するよう調整する予定、などが報告された。

（6）学術委員会

1）Annual Report 2018

食道領域はNCDデータからのコンバータを利用した学術調査報告に作業中である。食道分野会員及び食道学会の外科系委員にアナウンスを行う。

2）消化器外科データベース関連学会協議会への参加

日本消化器外科学会にパターンCで申請したが、2019年度内に開始したい消化器外科領域の研究がなく、パターンBで申請を行う。

3）福島原発事故と先天性心疾患の関連論文への反論

科学的論文として反論するために準備中である。

（7）学術集会委員会

日本外科学会開催中に第73回プログラム委員会を開催したことが報告された。プログラムの継続性と海外演者の調整を図り、学術集会事業を事務局で担当するため、マニュアルを更新する。テクノアカデミー、ディベート、グラディエーターセッション等の評価の高いプログラムは継続する。

1）第71回学術集会

会長講演・理事長講演・テクノアカデミーの一部をホームページ（一部は会員専用ページ）からストリーミング配信していることが報告された。

2）第72回学術集会

演題応募は1,414題、うち海外からは80題、JATS Asian Travelling Fellowshipは46名の応募があり、20名を決定する予定であることが報告された。

参加費案（一般会員・評議員18,000円、正会員13,000円、後期研修医13,000円、事前参加登録は特典あり）、また学術集会予算書が提出され本会助成金（正会員参加費助成金）を含め本理事会で承認された。

呼吸器に関して、胸腔鏡安全技術認定医制度の発足に伴い、胸腔鏡安全教育セミナーを開催する、Aortic Symposiumが学会終了後に実施（参加費10,000円）、発表時間と討論の時間を厳密に管理することが報告された。また、ストリーミング配信について、海外からの参加者も閲覧できるよう検討する。

3）第73回学術集会

学術集会プログラム委員会を開催し、プラットホーム作りを行ったことが報告された。

心臓分野は領域別責任者の選定、呼吸器分野は上級演題8つ、最終日に若手医師の会、ジョイントセッションはインターナショナルセッションに変更、食道分野は食道困難症例検討会を一般演題枠で実施し、引き続きPGCを行い参加者を増やすなどが報告された。また、分野別会長講演の時間はすべての参加者が聞けるような時間帯に行うよう工夫する。

（8）倫理・安全管理委員会

今秋の学術集会時における医療安全講習会の講師を選定、ライブ手術のガイドライン見直しを予定していることが報告された。

（9）診療問題委員会

SSI予防のために陰圧吸引閉鎖療法を行う件について、胸部外科分野として感染ハイリスク（移植含む）手術をPMDAに提示した。

（10）研究・教育委員会

審議事項

1）JATS Academy手術ビデオ・ライブラリー動画形式変換作業費

業者より提示されている金額に対し、余計なコストが計上されているとして再交渉を行った結果、お詫びと値下げ提示があったことが報告された。今回は値下げの金額を支払うことで承認された。

2）JATS Academy表側ホームページ作成・ローテーションバナー設置費用

非会員に周知するため表側のホームページを1ページ作成するとともに、学会トップページのローテーションバナーに組み込む費用につき、承認された。広報委員会でホームページのリニューアルを検討しているが、独立して先に進める。

報告事項

1）JATS Research Project Award

第1回は3月末に1回目の研究新着状況報告時期を迎え、全員より提出。第2回は学会からの助言を受賞の条件とした臨床研究と若手研究（食道）について、いずれも助言を受けての申請書再提出がなされた。

2）JATS Academy

認知度を上げるべく、News letterに3号連続で記事掲載中である。

3）サマースクール

共催金の振り込み時期について、次年度からは予算計上を前倒しすることが承認された。なお、今年は心臓、呼吸器ともに8月17日（土）、18日（日）に予定されている。

4）PGC

心臓血管外科、食道外科2020～2022年の中期計画を決定した。

（11）広報（Homepage-Internet）委員会

学会ホームページのリニューアルを検討中であり、次回理事会までに複数社によるコンペ開催を予定している。

（12）総務・渉外委員会

会員証廃止に伴う経費について、事務局から説明があった。会員証に印字していたQRコードを会員ページ内に埋め込み、スマホ等で表示させることで、これまでと同様の運用が可能となる改修費について、承認された。

事務局移転についてスケジュールが報告され、2022年4月～6月を予定している。WEB会議については、並行して検討中である。

（13）定款改訂委員会

本年は次期副会長（2022年統括会長）1名選出、一般社団法人定款及び施行細則の議決、分野会長2名（2020年分野会長）の承認、次期分野会長（2021年分野会長）の承認（理事会推薦）である。来年は一般社団法人として3名とも評議員会で選出、次期副会長（2023年統括会長）1名選出、次期分野会長（2022年分野会長）2名選出、分野会長2名（2021年分野会長）の承認である。

（14）J-MACS委員会

第6回委員会議事録（案）が報告された。

（15）処遇改善・男女共同参画/チーム医療推進委員会合同委員会

第72回定期学術集会における働き方改革、処遇改善、チーム医療合同特別企画の方針を検討したことが報告された。医師に対する働き方の運用は現状の労働環境に配慮し「2024年4月から、一般的医師の上限を960時間、地域医療や集中的技能向上のために承認された医師は1860時間で運用する」ことが確定し、5年間の罰則を伴う運用の猶予を与えられている。今回の特別企画は以下の通りである。

2019年11月2日（土）10：00～12：00

特別企画3

「メインテーマ：医師の働き方改革・2024問題」

―副題：働き方改革落ちこぼれ施設ゼロを目指して―

2019年11月1日（金）11：05～12：05

特別企画2

「テーマ：男女ともに輝ける胸部外科医を目指して」

この特別企画2に引き続き胸部外科女性医師の会を開催予定である。

（16）国際委員会

2018年度フェローシップは2019年4月時点で4名の留学が完了し、残り1名も今年5月から予定。JATS/AATS Foundation Fellowshipの2名も2019年内に留学を行う予定である。フェローシップ基金も昨年同様7社からの寄付が予定されている。

（17）一般社団法人化委員会

最新の一般社団法人定款・施行細則（案）が提出された。定款第9条（除名及び懲戒）、第28条（役員の解任）の項目にある「代理人の弁明」は削除、第46条（地方会）関連団体として地方会を置くことができるに変更、役員の辞任の項目を入れる等、定款改訂案をメール審議し、7月の理事会で最終決定を行い、その後パブリックコメントを求める予定である。

2．医師の働き方改革に関する検討会のとりまとめ

厚生労働省医政局医療経営支援課の渡邊課長補佐から、「医師の働き方改革」の現状が説明された。

（厚労省からの説明）

医師の働き方改革に関する検討会において、医師の時間外労働規制の具体的な在り方、労働時間の短縮策等についてとりまとめを行った。一般職の時間外労働の上限年720時間、医師の時間外労働規制A水準年960時間/月100時間。B水準地域医療確保暫定特例水準（都道府県が対象医療機関を特定）年1860時間/月100時間。C水準集中的技能向上水準（医療機関を特定）年1860時間/月100時間（C-1：初期・後期研修医日本専門医機構の定める専門研修プログラムに参加、C-2医籍登録後の臨床経験6年目以降の者）となる。上記ABCとも適正労務管理（労働時間管理等）で一般労働者と同様の義務（労働基準法、労働安全衛生法）が必要であり、医療政策における義務付けにより、実施状況確認等を行う方向で検討中である。

労働時間管理に関して、医師の労働時間にかかる論点の取扱い（宿日直）では、労働時間とは使用者の指揮命令下に置かれている時間であり、使用者の明示又は黙示の指示により労働者が業務に従事する時間は労働時間にあたる。医師の労働時間にかかる研鑽の取扱いでは、当該医師の経験、業務、当該医療機関が当該医師に求める医療提供の水準等を踏まえて、現場における判断として当該医師の上司がどの範囲を現在の業務上必須と考え指示を行うかによる。診療ガイドライン等は診療の準備行為として、労働時間に該当。ただし、自由な意思に基づき必須でない行為を時間外に自ら申し出て上司の指示なく行っていることが確認されていれば労働時間に該当しないという解釈である。この件に関し、質疑応答を1時間行った。

3．その他

（1）外保連分担金依頼の件

平成31年度分担金の400,000円を支払うことが承認された。

（2）心臓血管外科手術データベース機構分担金

2018年度収支決算書が提出された。また2019年度学会分担金については200万円を支払うことが承認された。

（3）補助人工心臓治療関連学会協議会

VAD協議会規約の改正、本邦における初期DTの進め方についてのWGの立ち上げなどが報告された。

2018年度 フェローシップ受賞者留学体験記

2018 年度 JATS フェローシップ（心臓血管外科分野・呼吸器外科分野・食道分野）

2018 年度 JATS フェローシップ（心臓血管外科分野）

University of Ottawa Heart Institute, Canada

藏澄 宏之

この度は第2回JATSフェローシップに選考いただき、誠にありがとうございました。このような貴重な機会を与えていただきましたことを、大北理事長、齋木国際委員会委員長をはじめとする胸部外科学会の先生方に心より御礼申し上げます。

私が留学させていただいたのはカナダのオタワ市にあるUniversity of Ottawa Heart Institute（UOHI）です。この施設のMarc Ruel教授からMICSを学ぶため渡加しました。オタワはオンタリオ州の東部に位置するカナダの首都です。首都ですが大都市ではなく、自然豊かでのどかな治安のよい街でした。UOHIは1976年に設立されたカナダ初の循環器専門施設で、年間1,700例の開心術が行われています。手術室は6室あり、Hybrid ORではTAVIやMitraclipなどのカテーテル治療が連日行われていました。

藏澄 宏之
所属：山口大学 第一外科
卒業大学：山口大学

略歴：
2004年 山口大学医学部附属病院 臨床研修医
2006年 JA 厚生連 周東総合病院
2007年 済生会下関総合病院
2008年 山口大学 第一外科
2015年 済生会山口総合病院
2016年 JCHO 徳山中央病院
2018年 山口大学 第一外科 助教

趣味：映画鑑賞
好きな言葉：成せば成る

UOHI心臓外科のdivision headであるMarc Ruel教授が私を直接指導して下さり、手術、回診、カンファレンス等に参加しました。Ruel教授は親日家で、日本人の私をとても暖かく迎えて下さいました。Observerという立場なので、直接的な医療行為は許されませんが、手術は清潔野で見学させていただきました。

Ruel教授はMICS CABGやMICS AVRに関する発表を精力的に行っておられます。教授のMICS CABGは左小開胸のLITAとSVGを用いた多枝バイパスで症例数も多く、小さな創の中で淡々と順調にCABGが進んでゆく様は感動的でした。海外からの見学者も多く、多国籍の心臓外科医と交流することもできました。また、教授以外のsurgeonの手術も自由に入らせて頂きました。各術者が各自の方法で手術をしており、様々な術者の様々な手術を細部まで見学できたことは、貴重な経験となりました。Visitorという立場での短い研修であったため、残念ながらUOHIのデータを使って学術論文を作成する許可は得られませんでしたが、この研修を通じて多くの心臓外科医と交流をもち、海外のtop surgeonの手術とhigh volume centerで行われてる治療を目の当たりにすることができました。

帰国後、自施設でMICS AVRを執刀する機会を与えていただきました。Ruel教授の方法で行いました。自分の執刀動画を見直してみると、教授が簡単そうに行っていたMICSと私のものとは雲泥の差で、落胆する一方、もっともっと上手くなりたいと強く思うようになりました。

今回の経験が自分の外科医人生に大きな変化をもたらすと確信しています。より一層精進し、日本胸部外科学会の発展に貢献できればと存じます。

University of Chicago, USA

橋本　誠

今回、JATSフェローシップにてシカゴ大学に短期留学させて頂きました。

PCIの成績向上、TAVR等の出現で、昨今、心臓外科治療は高侵襲なものというイメージが強くなっているように感じます。その中で、いかに内科医にも患者さんにも納得して頂けるような、低侵襲で、洗練された治療を行えるか、その実践が自分の使命と考えています。そんな折、当院でロボット手術を始める兆しがあり、最高のロボット手術を勉強したく、TECABで高名なDr. Balkhyの在籍するシカゴ大学を研修先に選びました。

シカゴ大学には神戸出身の太田先生がattendingとして御在籍で、私の留学に関して多くのサポートを頂きました。初日に、臨床、学術、プライベートそれぞれに明確な目標を持つ為に色々と話し合い、照準がより鮮明になったことを思い出します。慣れない地での研修で不安もありましたが、充実した日々を送れたのは太田先生のおかげです。プライベートでもビール作りやピザパーティー、色々と楽しく過ごさせて頂きました。心より感謝です。

臨床面ですが、シカゴ大学では毎日様々なロボット手術が行われており、多彩なロボット手術の真髄を自分に叩き込むことができたと思います。その中でもTECABは圧巻です。ロボットの性能はTECABで最大限生かされると確信しました。また、これが自分の進むべき"道"だと直感しました。

学術面ですが、いくつか論文を執筆する機会を頂きました。Case、Surgical technique、Original article 等、多様な論文を執筆し、それにより自分の見識も深め、指導医との関わりも深めることができたと思います。また、採択されるか分かりませんが、国際学会にも演題を提出し今後に期待です。

今回の留学で得た経験は今後の外科医人生で重要な核になると感じています。目標をもって望めば短期留学でも得られるものは膨大であり、このような機会を与えて下さった胸部外科学会に深く感謝致します。

橋本　誠
所属：札幌心臓血管クリニック 心臓血管外科
卒業大学：島根大学

略歴：
2007年 札幌医科大学 第2外科
2010年 北海道立北見病院 心臓血管外科
2011年 豊見城中央病院 心臓血管外科
2013年 榊原記念病院 心臓血管外科
2014年 札幌心臓血管クリニック 心臓血管外科

趣味：ロードバイク
好きな言葉：Sophistication

2018 年度 JATS フェローシップ（呼吸器外科分野）

Humanitas Research Hospital, Milan, Italy

春木 朋広

この度、第2回JATSフェローシップを受賞し、イタリア・ミラノに短期留学することができました。留学に際し、日本胸部外科学会の大北理事長、齋木国際委員会委員長、奥村明之進先生をはじめ、多くの先生方にご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

私の留学先は、ミラノ中心部から約1時間南にあるHumanitas Research Hospitalで、メンターは呼吸器外科ロボット手術の先駆者であるGiulia Veronesi先生でした。主に手術見学を行い、その中でもVeronesi先生のロボット手術を中心に学びました。自分たちの手技や手術戦略との類似点・相違点を見ることは非常に勉強になり、特にICGと蛍光カメラモードを駆使して行うRobotic segmentectomyは、本邦でまだ保険適応がなく、今後、始めていく際に非常に参考になる手技でした。日本でまだまだ特殊な手術という位置づけの呼吸器外科ロボット手術も、そこでは非常に慣れた様子で行われ、手術室スタッフの日常の中にロボット手術が溶け込んでいるのも印象的でした。イタリア人気質、とでも言いましょうか、スタッフ同士が明るく仲良く振る舞い、軽音楽が鳴り響く賑やかな手術室は、少し羨ましい気がしました。滞在中のイタリアは毎日晴天で、週末は各地の名所を巡り名産を食し、大好きなサッカー・セリエAの"ミラノダービー"も観戦できました。全てがかけがえのない貴重な体験で、素晴らしい時間を過ごすことができました。

日本でもこれからさらにロボット手術が展開されていくと思われますが、今回の自分の経験を活かし、微力ながら今後も本邦の胸部外科の発展に尽力したいと思います。最後に、このような機会を与えて下さった日本胸部外科学会、スポンサー企業の方々に深謝いたします。また、快く送り出してくれた当科中村教授、不在の間の診療をカバーしてくれた医局員の皆にも心から感謝いたします。

春木 朋広
所属施設：鳥取大学医学部 胸部外科
卒業大学：鳥取大学

略歴：
2004年 鳥取大学医学部附属病院初期研修医
2006年 鳥取県立中央病院後期研修医
2008年 鳥取大学医学部附属病院　胸部外科
2011年 国立がん研究センター東病院 がん専門修練医
2013年 鳥取大学医学部 胸部外科
2015年 University of Texas Southwestern Medical Center 留学
2017年 鳥取大学医学部 胸部外科

趣味：サッカー、ゴルフ
好きな言葉：病気を診ずして病人を診よ

Memorial Sloan Kettering Cancer Center, USA

鮫島 譲司

2018年11月から2か月間、ニューヨークのMemorial Sloan Kettering Cancer Centerに短期留学させて頂きましたのでご報告致します。今回の留学の目的は日本ではまだ少ないda Vinci手術を学ぶことと、米国の手術の現状を知ることでした。Memorial Sloan Kettering Cancer Centerはニューヨークのマンハッタンにあり、Thoracic Service前々部長のDr.Ginsberg、前部長のDr.Ruschは大変高名な先生方です。この施設を選んで良かったのはAttending Surgeonが12人いるため毎日複数の手術があり、自分の見たい手術を選べたことで、私はda Vinci手術を中心に見学しました。12人のうち3人のAttending Surgeonが主にda Vinci手術を行っており、それ以外の先生方は3 ports VATS（まれに後側方開胸・Uniportal VATS）を行っていました。有名病院のため世界中から見学者が来ており、我々はClinical Observerという立場で手術、カンファレンス、外来、病棟見学を行いました。私と同時期に来ていた中国の胸部外科の先生は同年代であったため非常に仲良くなり、毎日話す中で中国の呼吸器外科の現状についても詳しく知ることができました。

今回の海外経験は2か月という短いものでしたが、非常に貴重な経験でした。私は帰国子女ではなく留学経験もないので英語力は非常に不安な要素でしたが、海外で友人もできたため、英語を話す機会に恵まれたことも良かったと思います。インターネットが普及した世の中ですが、海外に実際に足を運んで現状を知ることや海外の人と直接話すことで得られる知識や経験は全く違うものだと思いますので、今回思い切って飛び込んでみて良い経験ができました。今後所属する施設でda Vinci手術の導入を進めて行く予定です。最後になりましたが、不在の間を支えていただいた同僚の先生方、このような機会を与えていただいた日本胸部外科学会国際委員会の先生方、スポンサー企業の方々に心よりお礼申し上げます。

鮫島 譲司
所属：神奈川県立がんセンター 呼吸器外科
卒業大学：横浜市立大学

略歴：
2006年 横浜市立大学外科治療学入局
2009年 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器外科
2012年 関東労災病院 呼吸器外科
2013年 がん研有明病院 呼吸器外科
2015年 横浜市立大学附属病院 外科治療学
2016年 神奈川県立がんセンター 呼吸器外科

趣味：旅行、テニス

2018年度 JATS フェローシップ（食道分野）

Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden

中島 雄一郎

この度はJATSフェローシップを利用して、スウェーデンのカロリンスカ研究所に2か月弱の短期留学をさせていただきました。当院心臓血管外科の塩瀬明教授より本プログラムをご紹介いただき、留学先の選定と受け入れの手配につきましては浜松医科大学の竹内裕也教授にご尽力いただき、両先生方には心より感謝しております。

今回の留学では、欧米に多く、本邦でも今後増加が懸念されている食道腺癌に対するIvor Lewis手術の手技習得を目的として渡欧しました。Magnus Nilsson教授が率いる上部消化管外科のユニットでの食道癌や胃癌に対する手術や回診、カンファレンス等に参加させていただきました。ほぼ全ての手術は胸腔鏡または腹腔鏡下に施行されており、Ivor Lewisを含む20例あまりの手術に参加させていただきました。overlap法による胸腔鏡下食道胃管吻合の手技や、縦郭内吻合で縫合不全を発症した際の対応法など、今後日本での臨床への導入にあたり、貴重なアイデアを学ぶことができました。一方、日本と異なる治療方針（郭清範囲や周術期治療など）に触れて、私が今まで日本で疑問を持たずに行ってきた診療内容の意義を問い直す臨床研究のヒントをいただきました。私が予想していた以上に彼らは日本から発表される臨床研究や論文に高い関心を持っており、英文論文や国際学会での発表を通して英語で発信することの重要性を再認識することができました。

最後に、カロリンスカではがん研有明病院より速水克先生がスタッフとしてご活躍されており、留学中は公私にわたり大変お世話になり、短期間の留学で最大限の学びを得ることができました。このような素晴らしい機会を頂きましたことを、本学会をはじめご支援いただいた全ての先生方に深謝致します。微力ながら、これからも食道外科の発展に貢献できるように精進したいと思います。ありがとうございました。

中島 雄一郎
所属施設：九州大学大学院 消化器・総合外科（第２外科）
卒業大学：九州大学

簡単な経歴
2004年 佐賀県立病院好生館 初期臨床研修医
2006年 九州大学大学院 消化器・総合外科（第２外科）
2010年 松山赤十字病院 外科
2012年 広島赤十字・原爆病院 外科
2014年 九州大学大学院 消化器・総合外科（第２外科）

趣味：読書
好きな言葉：働き方改革

2018年度JATS fellowship ザ・帰朝報告

『欧米一流施設で得た見聞とは』

国際委員会 委員長：齋木 佳克（東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野）

日本胸部外科学会では、中堅・若手の学会会員を対象に、海外施設において手術治療と周術期管理の見学、経験豊かなエキスパートとのディスカッションを通して、胸部外科領域（心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科）における治療の最先端医療を修得するための渡航費・滞在費の一部を補助する海外留学助成を実施しています。昨年の学術集会では、JATS fellow第一期生から臨場感あふれる熱い報告がなされました。果たして今期のJATS fellow 2018が見聞したものは何か。

学術集会1日目
2019
10/31（木）
17:40〜18:40
国立京都国際会館2階 第2会場（Room A）

若手・中堅胸部外科医の皆さんへ JATS Academy 2018.10 OPEN！

3分野計50本もの手術ビデオが公開されている手術ビデオ・ライブラリー。今後もさらに多数の公開が予定されています。
その第2弾になんと16本（！）ものビデオをご提供いただいた大北 裕理事長から若手・中堅外科医の皆さんへのメッセージを頂戴しました。

手術ビデオ提供者からのメッセージ

大北 裕（日本胸部外科学会 理事長）

日本胸部外科学会会員の皆様、JATS Academyが昨年から学会HPに掲載されているのをご存じでしょうか？このページは研究・教育委員会委員長 荻野 均先生の肝いりで始められた新企画で、若手胸部外科医を対象にしています。内容は手術ビデオ・ライブラリー、研究（支援プロジェクト、学会主導プロジェクト、など）、教育コース・e-ラーニング（PGCテキストアーカイブ、教育講演内容）、学会情報、国内、欧米の関連ガイドラインなどから成ります。手術ビデオ・ライブラリーはわが国を代表する外科医達から、多くのビデオを提供していただきました。2019年7月12日現在で、心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科、3分野計50本の手術ビデオがアップされ、今後も多くのビデオ掲載を予定しています。普段観られない“一流の手術”が皆様のお手元で何回でも閲覧できます。

ビデオを閲覧される皆様にお願いしたいことがあります。完成したビデオは、編集された、あくまで“よそゆき”の映像で、術者・チームの逡巡、葛藤、逸脱などは通常見られません。また、その手術が成立する歴史的背景、理論的基盤などは明らかにされることはありません。手術室の雰囲気・熱気やorchestration、術者の体幹、手指の動き、助手の生かし方など、水際の手術手技・秘儀などは伝わらないかも知れません。手術を学ぶには“生”が一番ですが、次善の策としてこのライブラリーを皆様に提供します。これらを最大限に生かそうとすると、そこには予め教育された頭脳・心が要求されるでしょうし、視覚の奥に豊かな想像力を働かせることが重要です。手術ビデオを観るのにもトレーニングが必要なんです。皆様のご健闘をお祈りします。

会員各位

通常総会のご案内

通常総会を右記の通り開催いたします。ご出席の方は通常総会案内状を受けた会員に限ります（別途往復葉書で会員へ発送いたします）。
学術集会にご出席の方でも通常総会にご欠席又は出欠が未定の場合は、必ず捺印の上、委任状をお出し下さい。委任状は、議長以外の会員の方を代理人とする場合は代理人の氏名をご記入下さい。代理人氏名記入のない委任状は、議長を代理人としたものとして取り扱います。
なお、昨年の評議員会速記録及び総会速記録は、本会ホームページ（会員専用）に掲載されており、議決を伴う事業報告及び収支決算報告及び監事の選任については、評議員会及び総会において満場一致にて議決されております。

特定非営利活動法人日本胸部外科学会　理事長　大北　裕
第72回日本胸部外科学会定期学術集会　会長　伊達 洋至

日時：2019年11月1日（金）
7：30～8：00

会場：国立京都国際会館 1F
第1会場（メインホール）
〒606-0001 京都府京都市左京区宝ヶ池
TEL：075-705-1219

付議事項

1. 事業報告承認の件
2. 決算報告承認の件
3. 役員選任の件
4. 一般社団法人移行に関する件
5. その他

＊ご注意：自然災害等の影響で不可避の問題が発生した場合は、開催についての対処を協議し、ホームページ等に掲載しますのでご留意ください。

スマートフォン型会員証の導入のお知らせ

あらかじめ会員証画面を保存しておくと大変便利です！

1 第72回定期学術集会より運用開始

従来のカード型への『年1回の持参は不便』『スマホで代用できれば』とのご不満・ご要望にお応えし、スマートフォン型会員証を導入いたします。**カードのQRコードが『会員ページ』に内蔵され、スマートフォンでの参加証発券が可能になりました。カード型の発行は取り止めますが、使用は引き続き可能です。**スマートフォンをお持ちでない方もご安心ください。

2 参加証に印字される所属等

- 事前参加登録された方：その際ご決定いただいたもの
- それ以外の方：2019/10/22（火）時点で学会ご登録のもの

後者のご変更は『会員ページ』より期日までにお済ませください。

3 ご利用の方は、あらかじめ保存を

当日は受付で『会員ページ』ログインに手間取る混雑も予想されます。**事前に会員証をご自身の端末に保存しておけば、よりスムーズな参加証発券が可能です。**学会HPでその方法をご参照の上、ぜひお済ませください。未だログインされたことのない方は、必ずお済ませ願います。

学会HPご参照の上、学術集会前に右記画面を保存ください

第72回定期学術集会より運用開始
〔2019年10月30日（水）～11月2日（土）〕

日本胸部外科学会 オリジナルネクタイ販売

深みのある紺地に赤・緑・黄のストライプと心・肺・食をイメージしたロゴマークが施されたデザインとなっております。
会員の皆様、学術集会参加の際などに是非お一ついかがでしょうか！
お申し込みの詳細は学会 web サイトをご覧ください。 http://www.jpats.org/

＊＊ 追 悼 ＊＊　（日付は逝去日）
2018年7月26日～2019年7月25日までに届け出をいただいた逝去者一覧：18名

加藤 幹夫	2018/2/19	椎谷 龍彦	2018/9/1	古瀬　彰	2019/2/20
並河 尚二	2018/3/6	一瀬 幸人	2018/9/6	磯松 幸尚	2019/3/14
阿部 忠昭	2018/3/24	臼井 典彦	2018/9/11	安藤 武士	2019/4/1
井村 真里	2018/6/4	海老根 東雄	2018/12/27	豊平　均	2019/4/4
藤田 正一郎	2018/8/22	上村 重明	2018/12/28	安藤　進	2019/4/5
吉増 達也	2018/8/28	大城 兼光	2019/2/20	岩　喬	2019/5/6

編 集 後 記

京都で行われる今年の定期学術集会の案内が１面に掲載されています。テーマは「胸部外科の伝統とイノベーション」ということで、伊達会長のもと今年も活発な学術集会となることが期待されます。一方、昨年の評議員会で決定した通り、この形式の単一会長による学術集会はこれが最後となり、来年からは一人の統括会長のもと二人の分野別会長が開催する、いわゆる分野別会長制に移行する予定です。また、これは同時に昨年の評議員会で決定した本学会の一般社団法人化とリンクしており、今年の評議員会でその新法人の定款が承認される必要があります。大北理事長のもと、昨年、今年と胸部外科学会の変革のための重要な方向性が示されており、まさに「胸部外科の伝統とイノベーション」であります。２面には重要告知が掲載されており、前記のほか、正会員への学術集会参加費割引制度や、地方会費の廃止と本会の年会費値上げの件も記載されています。４、５面には未来の胸部外科学会を背負って立つ若者たちのフェローシップ報告があり、今後の活躍が期待されます。私の母校、東北大の学生歌に「歴史ある伝統は常に新し」という一節があります。旧弊を変えない組織は衰退します。常に変革する組織のみが歴史を刻むことができるのです。胸部外科学会の伝統は常に新しくあるべきだと思います。

広報委員会委員長　千田 雅之

日本胸部外科学会 NEWSLETTER
JUST NOW JATS
No.51
2019年9月10日発行

発行◉特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◉03-3812-4253　FAX◉03-3816-4560
URL◉http://www.jpats.org/

編集◉日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◉jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◉株式会社 杏林舎

本誌掲載記事、写真等の無断複写・複製・転載を固く禁じます。©The Japanese Association for Thoracic Surgery